

市政運営の所信

令和5年12月6日

去る11月12日執行の市長選挙におきまして、多くの市民の皆さまからご信任を賜り、栄ある第7代八幡市長に就任させていただくことになりました。これもひとえに、皆さまのご支持、ご支援の賜物でございます。心よりお礼を申し上げます。ありがとうございました。

これまで八幡市を支えてこられました皆さま方の功績をしっかりと受け継ぎ、さらなるまちの発展を目指して市長選挙に臨んだ身でございます。今、改めまして約69,000人の市民の代表としての重責に身の引き締まる思いでございます。まだまだ力不足の私ではございますが、市民の皆さまからいただきました信頼と期待に応えるべく、これからの4年間、公約の実現に向けて全身全霊で職務を務めさせていただきます、三つの川が合流し大河 淀川となります、この八幡市の未来に向かって、時勢を見極め、しっかりと舵を取らせていただきます。

少子高齢化による人口構造の変化、それによる生産年齢人口の減少と税収減による財政不安は、日本全体が抱える課題ではありますが、全国平均以上の高齢化率を抱える八幡市もまた、その例に漏れません。

一方で、八幡は素晴らしい自然、風景、豊かな農地と観光資源、そして近畿交通網の要衝として、魅力や活力あふれるまちづくりの可能性を十分に秘めています。

私は、『皆さまとともに「今、八幡だからできる」成長を掴み、誰もが安心して暮らせる、優しいまちづくりを実現する』ことを目指して参ります。近畿の真ん中という地の利を生かし、市民の皆さまの力をお借りしながら、八幡（わがまち）の発展とともに、

「全ての世代が住みたい・住み続けたいと思える魅力と活力あふれる八幡(まち)」づくりに全力を尽くしていくことをここでお誓いさせていただきます。

それでは「堀口前市政の後継」として令和5年3月に策定されました第5次八幡市総合計画後期基本計画を基本とし、私に取り組もうとしております具体的な3つの柱について申し述べさせていただきます。

まず1つに「誰もが安心して暮らせる、優しいまちづくり」でございます。

私自身、家族に生まれつきの障がいがあったこと、また、ケースワーカーとして生活保護業務に携わった経験から、基礎自治体の行政支援における「ひとつひとつの家庭に寄り添った目線」を離さない姿勢の大切さを痛感してまいりました。ハンディキャップの有無、性差、年齢などにとらわれない、ひいては、障がいのある方もいきいきと活躍でき、安心して暮らしていただけるような行政支援の充実、生活利便性の向上を、行財政改革に取り組むことはもちろんですが、単なるコストカットや市民負担増を強いることがないよう「新たな成長、新たな財源確保」の実現を目指してまいります。

「子育て世代の負担軽減」といたしましては、妊娠・出産から子育てまで、切れ目のないサポート体制を地域ぐるみでしっかりと構築することが大切でございます。私自身がまちづくりのリーダーとして、子育てに寄り添う姿勢を示すことが重要だと考えております。

まずは子育て世代が安心して生活し続けるために、18歳までの子どもの医療費の無償化に取り組んでまいります。給食費の無償化につきましては、国や京都府と連携し、最大限の支援を求めながら、実現に向けて段階的に取り組んでまいります。さらには、安心して子育てできる支援・相談体制の充実に取り組んでまいります。

「全ての世代が健幸で暮らしやすいまちづくり」につきましては、「やわたスマートウェルネスシティ構想」及びその計画に基づき、市民の誰もが「健康寿命」を延ばし、いつまでも元気で暮らし続けることができるように、健康づくり習慣の促進や歩いて楽しいまちづくりをめざすなど着実にその歩みを進めてまいります。

八幡市に住みたい、住み続けたいまちとさせていただけるよう、高齢者の方々をはじめ、全ての世代が移動しやすい持続可能な公共交通の充実にも努めてまいります。

「防災・安心安全のまちづくり」につきましては、本市は地形上、古くから何度も水害に見舞われてきた歴史がございます。

災害による被害を最小限にとどめるには、ハード／ソフトの両面で対策を講じておくことが重要でございます。ハード面としては、国や京都府と連携して内水対策に取り組んでまいります。ソフト面としては、自治会など地域コミュニティ単位の避難行動タイムラインの作成を支援すること、企業等さまざまな相手方との災害協定を締結することによって、市民の避難体制の充実を図ってまいります。

防犯につきましては、本市における直近の10年間で刑法認知件数が約3分の1に大きく減少してきており治安は改善傾向にあると

伺っております。しかしながら、令和4年8月に実施された市民アンケートでは市外に移りたい理由の上位に「治安に不安がある」と挙げられております。本市で住み続けたいと思っただけのよう治安は重要な課題となっていますことから、市民の皆さまが不安を感じないまちづくりに取り組んでまいります。

2つに『「今、八幡だからできる」成長を掴むまちづくり』でございます。

新名神高速道路の全線開通を数年後に控え、本市はこれから東京・名古屋・大阪・神戸の4大都市を結ぶ、新たな交通の要衝となり、企業等からの注目度も一段と上がる時期を迎えます。「活力と魅力あふれるまちづくり」を進めていくために、これを機会と捉まえ、企業誘致の推進に取り組んでまいります。一方で、守るべき農地は守り抜かなければなりません。農地の基盤整備・担い手育成・学校給食における地元産農作物のさらなる活用など、多面的な農業振興策の検討と併せ、バランス感覚をもった都市整備に取り組んでまいります。

加えて、活気のあるまちを目指し、関係団体等と連携を深め、魅力ある商店街の形成に繋がるよう取り組んでまいります。

また、「新たな財源の確保」といたしましては、八幡（まち）の玄関口でございます京阪石清水八幡宮駅前の整備に取り組んでまいります。国宝石清水八幡宮や背割堤の桜、飛行神社、松花堂など、市内の価値の高い資源を活かした観光振興により市内経済の活性化を

目指してまいります。さらには、市有財産の有効活用やふるさと納税の促進などにより、新たな財源を生み出す「稼げる行政」となるような取り組みも進めてまいります。

3つに「皆さまと一緒に考え、ともに実現するまちづくり」でございいます。

まちづくりは、一人でやるものではありません。また、できません。議員各位のご意見をお聴きしながら、市民と協働した「チームやわた」で進めていかなければならないと思っております。

市民の皆さまにとりましては、やはり生活実感の充実が第一義ではないかと思っております。市民生活を充実していくためには、堀口前市長も取り組まれてきた支援施策の拡充や、新たな財源の確保に引き続き歩みを進めてまいります。常に市民の皆さまがどのようなことを考えているのか、どのような気持ちで、どのような悩みがあるのか、しっかりと受け止め、また、想像力を膨らませながら取り組んでまいります。さらに、市民の皆さまの意見を聞く機会を設けるように努め、「ともに考え、ともに実現するまちづくり」を目指してまいります。

以上、市政運営に臨みまして私の基本姿勢を述べさせていただきました。

これらの課題に、市民の皆さまのご意見や市の現状を踏まえ、優先順位をつけて取り組み、今、八幡市だからこそできる成長を掴む

まちづくりを実現し、その成長の果実を福祉の充実、市民生活の充実として分け合う市政運営を目指してまいります。

市議会の皆さま、市民の皆さまの温かいご支援とご協力を賜りますよう心からお願い申し上げます。

八幡市長

川田 翔子